

教員紹介

今回は、基幹研究院自然科学系准教授長澤夏子先生をご紹介します。長澤先生は大学院ではライフサイエンス専攻人間・環境科学コース、学部では生活科学部人間・環境科学科にご所属です。



Nagasawa Natsuko
長澤 夏子

住まいの環境を良くすることで健康維持増進の効果も期待できるのです。

Q まず始めにご出身、ご経歴などについて教えてください。

子供時代は京都の伏見で過ごし、中学からは千葉で育ちました。暗記科目に苦手意識があつて理系に、また芸術にも関心があつたのでテッサンの試験がある早稲田大学の建築学科へ進学しました。子供時代には近所の醍醐寺の境内が遊び場でしたが、その五重塔が京都最古の木造建築物だと日本建築史の授業で知り、火災や戦禍、地震などにも耐えたことに驚きました。当時、早稲田の建築学科の女性は2割程度でしたが、理工系は男女を問わず大学院への進学率が上がつていて、私も進学しました。卒論、修論では、建築を使う人や新しい空間に関わるテーマならなんでも良く、先生や研究室の人と議論をしながら研究を進めるのが楽しく、またその他にも設計コンペやプロジェクト研究など大学での活動に没頭していました。また学会発表だ、研究室の宿舎だ、建築の見学だ、など理由をつけては、友人や先輩後輩とあちこち旅行に出かけていました。博士課程を終えてからは、子育てをしながら出身の研究室に研究員として在籍し、非常勤で設計教育を行ったり、また建築プロジェクトや調査研究を担当していました。その後、早稲田大学 先端科学・健康医療融合機構(ASMeW)に籍をうつし、建築以外の医学・ナノサイエンスなど異分野共同の研究プロジェクトに従事しました。そして2015年4月に縁あつてお茶の水女子大学に赴任しています。

Q 先生のご専門は何ですか？

専門は建築計画学という、人の行動や身体・心理に適した建物を設計するための研

究分野です。建築や環境の設計を行う時に、ユーザーにとって良いデザインとなるようにと考えていますが、どういったデザインが「よい」のかを考えて、調査や実験を通して工学的な裏付けを得る研究をしています。使いやすさや、健康性、安全性、見やすさ、美しさ、間違えにくさ、負担の小ささ、など様々な観点で評価して、よりよいデザインや設計を提案するものです。これらの評価は人によって違うこともあります。健常者にとって都合がよくても他の人にとっては使いにくい、あるいは、使えないということがあります。私たちは毎日、様々な建築の中で暮らしていますので、様々な人にとっての日常生活環境についての問題を取り上げて、それを改善するデザインや方法論を研究しています。

また建築や都市は作られたあとと長期間使用するものです。ですから将来的に必要な機能を構想することが必要です。たとえば人口が減り高齢化が進む日本で、今後必要とされる住宅や生活環境として「高齢者、弱者、健常者それぞれについて、長く健康を維持できる住まい」「省エネでも居心地よく暮らせる環境」などをテーマに研究しています。フィールドとしては、住宅のほか、ショッピング施設や福祉施設、美術館、都市など様々な場所を取り上げています。

Q 研究の内容と、なぜそのような研究をするようになったのか、教えてください。

美術館やデパートでの観覧者の行動を追跡調査したりビデオ観察したりして、行動パターンや、どこでリラックスしているかなどを調べ、環境による行動のモデルを作成してい

ます。建築家の方から、実際に設計中の美術館やデパートの図面を見せられ、この設計だと人はどう動くだろうかと質問されることがあります。入口の位置や、通路のつながり、店舗位置などから、実際の美術館やデパートの行動を調べることで、買い物などの行動のパターンを明らかにできれば、これから設計する建物での行動が予測できて設計案をよくすることができるのです。大学生の頃に、デパートや美術館や街中に出て、実際の人を観察して研究になるなら楽しくいいなと思って始めました。

住まいについては、5,000名の女性を対象として、住まいの満足度と、ストレス、身体の痛みや負担など、健康と住まいの関わりについてアンケートも行いました。住まいの満足度があがると、ストレスが減り、痛みが減る、といった因果関係があることがわかりました。日常生活の環境が身体や心理にも影響を与えるので、住まいの環境を良くすることで健康維持増進の効果も期待できるのです。

Q お茶大生へ向けてのメッセージをお願いします。

お茶大は都内で、たいへん便利な場所にありますので、授業ではグループで新しい建物を探してリサーチしてもらったり、また私も一緒に見学に出かけたりしています。東京近郊には、美術館やホール、青山界隈の商業施設など、世界的に有名な建物もたくさんあります。街歩きなどは、思わぬ発見がありとても楽しいですから、大学の友人とあちこち出かけてみてください。

文責：基幹研究院自然科学系 准教授
飯田 薫子